

『大会特別規則』及び『申し合わせ事項』

1. 『競技規則と競技方法』

◎2007年度公認野球規則及び大会特別規則によって行う。

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合は7イニングスとする。
- (2) 得点差によるコールドゲームは5回終了以降8点差とする。但し、決勝戦には適用しない。また降雨・暗黒によるコールドゲームも、5回終了をもって正式試合とする。

なお、5回終了前までに降雨、暗黒及びその他の事情で試合続行不可能となったときは、翌日の第1試合に先立って再試合として行う。また、5回以降同点の時は特別継続試合として行う。ただし、決勝戦においては再試合として行う。特別継続試合は、もとの試合の中断された個所から再開し、出場者や打順ももとの試合と同一でなければならない。規定によって認められる選手交代は認められる。

(降雨・暗黒等の天候状況による試合続行の可否判断は、審判団との協議による)

- (3) 7回終了時同点の場合は、以下の通りとする。

《春季大会》延長戦は行わず、8回以降特別延長戦を適用する。

《夏季大会》9回まで延長戦を行い、10回以降特別延長戦を適用する。

《秋季大会》延長戦は行わず、8回以降特別延長戦を適用する。

※試合結果(スコア)は次のように表記する。 [例] 0(2) - 0(1)

【特別延長戦】

『定義』最終回の最終打者の次の打者を1番打者として無死満塁の状態から攻撃を行う。走者は1塁が最終回最終打者、2塁及び3塁走者には最終打者の前の打者、前の前の打者が入ることとなる。

《春季大会》延長戦は行わず、8回以降は特別延長戦を勝敗が決するまで行う。

《夏季大会》9回まで延長戦を行い、10回以降は特別延長戦を勝敗が決するまで行う。

《秋季大会》延長戦は行わず、8回以降は10回まで特別延長戦を行う。それでも勝敗が決しない場合は、最終出場選手9名による抽選を行い、勝敗を決する。但し、決勝戦には適用せず特別延長戦を勝敗が決するまで繰り返す。

- (4) 背番号は1～20とし、原則としてポジション別とする。

- (5) その他の大会特別規則については別に定める。

2. 『大会特別規則』

《試合前》

- (1) 出場チームは、試合開始予定1時間前までには球場に到着すること。

- (2) 球場内での練習は、キャッチボール・トスバッティング程度とする。また、芝生

内のスパイクでの練習を禁止する。(フリーまたはハーフバッティングは禁止)

- ☆(3) メンバー表の提出交換は、試合開始40分前あるいは前の試合の4回終了時に行う。メンバー表は主将が3部(ふり仮名つき)を本部に提出し、その場で攻守を決定する。試合球は1試合につき各チームが3個負担する。
- (4) ベンチは抽選番号の若い方が一塁側とする。
- (5) フィールディングは、後攻側から始めて7分間(2分前指示)とし、ノッカーは登録者で、ユニフォーム着用とする。ノッカーのサングラスは認めない。なお、フィールディングには3名までの補助員を認める。服装は練習着や学校ジャージでも可とする。フィールディングは状況に応じて省略する場合がある。
- (6) 先発バッテリーには、メンバー表交換終了後、指定されたブルペンの投球練習を認める。但し、試合中のチームの了承を得ること。(球場によって差異あり)
- (7) 選手のユニフォーム、用具類は華美にならないように留意すること。(ハイカットストッキングやソックス一体型のものは禁止)
- (8) ユニフォームのストッキングは、はっきり見えるように履くこと。
- ☆(9) 相手チームのフィールディング中はベンチまたはベンチ前にて待機すること。ファールエリアで素振りやスタート練習などは行わない。

《 試合中 》

- (1) 自軍ベンチ側のファールボールは、速やかに拾いに行き、ボールボーイに手渡すこと。なお、ボールボーイは当番校が行う。
- (2) 攻守の交代は迅速に行い、先頭打者とコーチャーは円陣には参加せず、速やかに所定の位置につくこと。また、ボールはマウンド上にきちんと置くこと。
- (3) 各回の投手の練習球は、初回7球、2回以降3球とする。(状況により変更あり)
- (4) 投手は投手板(プレート)についてサインを見ること。また、投手からのサインは禁止する。
- ☆(5) 次打者は必ずウェイティングサークルへ入り低い姿勢で待機する。バット、マスケットバットの持ち込みは差し支えないが、プレイの状況に注意し、適切な処置をすること。(グラブ、スプレー類の持ち込みは禁止する)また、四死球などで出塁する場合はバットは投げずに控え選手に手渡すこと。
- (6) 打者はバッターボックス内にてサインを見ること。
- (7) ボール回しは野手の定位置から速やかに行うこと。(状況により変更あり)
- (8) 控え選手は試合中、ベンチ内にいること。
- (9) メガホンはベンチ内1個とする。
- (10) ベンチ以外からの指示は絶対厳禁とする。
- (11) 選手応援では、相手選手や審判団を誹謗するような言動は厳に慎むこと。また、中学生にふさわしくない言動や行動があれば、その試合の出場を停止する。(審判団から監督への指示で自主的に)
- (12) リストバンド、チタンプレス、チタンや磁気ネックレスなどを身につけての出場は禁止。またバットリング、鉄棒類の使用・持ち込みもできないものとする。但し、テーピングはケガ等の場合に限り、大会本部の許可のもとに使用する。また、投手の指先へのテーピングは一切認められない。

(13) 手袋の使用を認める。ただし、色は高野連に準じて白または黒とする。

(14) 突然の負傷などの治療で一時走者を代えたい場合は、審判に申し出て、審判団が必要と認めた時は、これを許可する。

(試合に出ている9人の中から代走：打順の前位の者、ただし投手を除く)

- ☆(15) 選手交代の申し出は、監督が行うこと。また、審判員のルール適用に対する疑義の申し出は監督または該当選手に限りできるが、判定に対しての抗議は一切できない。監督が疑義の申し出をする場合はファールラインを越えてダイヤモンド内に入ることにはできない。またコーチはベンチから出ることができない。
- (16) 無用のタイムは慎み、試合進行に協力すること。監督が試合中ベンチから出て選手に指示することを禁止する。必要のある場合はタイムをとり、伝令により指示するか、または選手をベンチ前に呼び指示する。
- ☆(17) 公認規則 3・03 原注（投手は、1 イニングで投手以外の守備に2 度以上つくことは許されない）は本大会では適用しない。ただし、タイムについては以下のように規定する。
- ①監督が1 イニングに2 度以上投手または投手を含む選手に対し伝令を出すか、ベンチ前に呼び寄せた場合、自動的に投手交代となる。
 - ②捕手または内野手2 人以上が試合中にタイムを取って投手の所に行ける回数は3 回以内とする。（特別）延長時は2 イニングに1 回とする。
 - ③攻撃側のタイム中に守備側の監督またはコーチが選手を呼び寄せ、指示を出すのは差し支えないが、その際にプレーの再開を遅らせた場合は①とみなす。
- ☆(18) 攻守交代時、守備側の控え選手はベンチ内またはベンチ前で待機する。また、攻撃側の選手は次打者以外ベンチを出て素振りをしてはいけない。
- ☆(19) 公認規則 7・06(a)のストラクツヨ【付記】（捕手のブロック）の適用について、中体連では『ボールを保持しているときにしか塁線上に位置することはできない』こととする。この規則はあくまでも重大な危険回避のために制定するものである。（解説図参照のこと）

[規則適用の解釈]

- ①走塁妨害を適用するのは、あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できたと判断される場合だけである。
- ②捕手が走塁妨害を犯したにもかかわらず、瞬間的に「アウト」のコールをしてしまった場合でも、改めて「オブストラクション」を宣告することができる。
- ③走塁妨害適用外の場合においても、そのような行為があった場合は直ちに試合を停止した後、捕手に対して嚴重注意すること。なお、本塁以外の塁上においても同様とする。また、空タッチも禁止する。
- ④ボールを保持する前に立てる位置は次の通りとする。
 - ・ホームベースの中央線より右側に立ち、ベースの左半分は必ず走者に見えるように空けておくこと。
 - ・捕手がホームベースよりも後方に位置する場合でもベースを隠すように3塁方向前方へ出てはいけない。
- ⑤ボールを保持している場合、または送球を捕球しようと上記位置に移動する場合はこの限りではない。

《 試合後、その他 》

- (1) 試合終了後の挨拶で全てを完了とし、ベンチ前や本部への挨拶は必要とせず、次の試合のためにベンチを速やかにあけること。(勝ちチームは、次の試合のフィールドイング終了後にグラウンド整備を行うこと)
- ☆ (2) ベンチ入りは、登録選手20名、当該学校長・部長・監督・コーチ各1名のほか、スコアラー(生徒)1名、マネージャー2名以内とする。監督・コーチ・選手ともに同一ユニフォーム及び同色スパイクとし、部長がノッカーの場合もユニフォーム着用する。スコアラー・マネージャーが女子の場合はジャージ着用も可とする。
- ☆ (3) 選手の頭髪、身なり、言動、態度は中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合の前後においてもスポーツマンらしく行動すること。また、プレーにおけるマナー(素早い攻守交代・無用な砂かけの禁止等)にも十分留意すること。
- (4) 危険防止のため、捕手には必ずレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガードの着用を義務付ける。投球練習時の控え捕手についても同様にする。また、打者及び走者においても両耳ヘルメットの着用を義務づける。
- (5) 球場の使用にあたっては、選手・父母関係者ともに公共施設の使用であることを十分に理解し、美化や使用上の注意事項、マナーやエチケットなどには十分に留意すること。
- (6) 大会中の負傷等については、各チームで応急処置ができるよう準備しておくこと。
- (7) 雨天による大会実施の可否の判断及び日程変更等については、午前6時以降に運営本部より連絡する。
- (8) 本大会参加者は大会運営上必要なプログラム、掲示板、ホームページ及び記録集への氏名・所属・学年・その他必要事項の記載について了承するものとする。
- ☆ (9) 本大会(中体連主催大会)参加者は、軟野連主催全日本少年野球大会には登録

及び参加することはできない。ただし、日程が重ならない場合はその限りではない。

- (10) 監督会議での説明及び上記の事項については、選手全員・父母等関係者へ周知徹底しなければならない。

※以上の事項は、北海道中体連軟式野球専門委員会作成の「大会特別規則並びに申し合わせ事項」に準拠して作成したものです。